

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2015

1月

No.115

特集
P2・3

2015年の栄栗市社協

理事から新春メッセージ

新しいつながりのカタチを作る
地域福祉の推進を



山崎町 神谷
小林 美穂子さん(84歳)

ひ孫と
いっしょ

シリーズ 114

○くらちゃん(9歳)

○伶音くん(5歳)

○之永愛ちゃん(1歳)

有時 護さん・万里亜さん

■長女・長男・二女



平成27年正月

年頭にあたり本会理事15名から新春メッセージをお届けします。

社協の使命

森本 都規夫 会長

(波賀町谷)



新年のお慶びを申し上げます。

誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくりをしていくのが社協の使命であり、取り組みの展開は市民の皆様のご理解とご協力があつて達成できるものです。

「社協があつて良かった」と言っていたいただけるよう役職員一同頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。

地域福祉は連携が大切!!

段林 繁 副会長

(二宮町生栖)



社協の役割は、日常生活に直結した福祉の最前線で活躍する方々のサポート役です。介護保険の見直しや、地域包括ケアを初め多くの課題が山積しております。

行政との連携を密にしながら、バランスの取れた社協運営に努めます。

老いをみんなで支えよう

谷林 俊美 副会長

(山崎町塩田)



援助を必要としているお年寄りが年々増えています。しかし、今やそうしたお年寄りを家族だけで支えることが難しくなっています。

これからも社協を中心に地域ぐるみで力を合わせ支えていく取り組みが必要と感じますので、ご理解、ご協力をお願いします。

広い心で交流・ふれあいを

猶原 卯一 副会長

(千種町下河野)



最近思うこと、穴栗市には千二百戸余りの空き家があります。この空き家に今、様々な形で行われている都市と農村の交流事業の中から「田舎暮らし」を望む方々が「田舎暮らし」をするなら、この自然豊かな穴栗市でと言われるようになればと思っています。

2015年の穴栗市社協

理事から新春メッセージ

新しいつながりのカタチをつくる

地域福祉の

推進を

次世代へ絆いでいこう

地域福祉活動

伊藤 次郎 理事

(山崎町段)



穴栗の地域福祉の視点から、成熟社会(?)は個人の「生活の質」と「社会の望ましさ」とが離れていく様子が見られます。何とか今、踏ん張って先輩諸氏の皆様がつくり上げた地域の福祉力の大切さを工夫し、実践し、次世代へ絆いでいくことが大切であるなど自問自答しています。本年も皆様、社協へのご支援をよろしくお願いいたします。

地域でのつながりを大切に

梶本 みゆき 理事

(山崎町庄能北)



週一回百歳体操に参加しています。この体操に参加して思うことは、それぞれの役割分担で取り組むことと、参加者全員がいろいろな交流しあう場であることが素晴らしいと感じています。

体操を通じてお互いを認め合い、支え合い、見守り、そつと寄り添う心配りが、住み慣れた地域で安心して生活していけるのではないのでしょうか。

百歳体操・ふれあい喫茶などを通して「ストップ・ザ・無縁社会」につなげていけるよう願っています。

心豊かに過ごせる

地域を未来へ

山田 クニ子 理事

(山崎町杉ヶ瀬)



無縁社会と言ふ言葉を耳にするたび、心が痛みます。安心して心豊かに暮らせるような地域を作るためにまず、気配り、心配り、声掛けから...「ここに住んでよかった」と思えるような地域づくりが出来るよう努力していきたいと思っています。

奉仕活動に感謝

安積 盛久 理事
あづみ もりひさ

(一宮町曲里)



日頃は社協事業遂行にあたり皆様方のご理解をいただきありがとうございます。

真に求められる福祉活動には、公助・共助の支援が欠かせない役割であることは周知のとおりですが、みんなが「自助力を発揮する努力」もまた重要です。お互いが自立や介護予防に励み、今年も健康ですばらしい一年となりますようお祈ります。

近所力アップを

朽尾 多喜子 理事
とちお たきこ

(一宮町福野)



何もかもが便利になり、豊かになりましたが、無縁社会が進み、高齢者と過疎化が進んでいます。

「トントントンカラリン」と隣組：助けられたり助けたり」の精神、地域の結びつきや支え合いの心を大切に、地域のご近所力を高めましょう。

今後大切にして

いききたいこと

植田 美代子 理事
うえだ みよこ

(波賀町野尻)



各自治会でふれあいサロンやふれあい喫茶が定着してきました。来年度は小学校が統合になり公共施設が空いてきます。

その施設も活用し、校区全体で集える事を考え、各自治会にあったニーズで連携をとり、誰もが主役になり地域全体コミュニケーションの向上を図っていききたいものです。

本年4月から施行される生活

困窮者自立支援法や介護保険制度の見直しなどに見られるように、今ほど地域福祉や社協の存在が問われる時はありません。

本年も宗栗市の地域福祉推進のため全力をあげます。

地域ので生き活き笑顔!!

山根 勝 理事
やまね まさる

(波賀町安賀)



少子高齢化が進み、「支える」形態が、「胴上げ型」から「騎馬戦型」に。そして、「肩車型」という不安定な型になろうとしています。

一人でだめなら地域ので、支え合い(愛)ましょう。「老いも若きも活き活き笑顔 ふれあい溢れる里づくり」。社協は喜んでお手伝いいたします。

地縁のつながり

向こう三軒両隣

岩路 静代 理事
いわぎ じずよ

(千種町奥西山)



貴方は一日に、どれだけの人と挨拶を交わしていますか?

人との交わりが少なくなっている昨今、住み慣れた地域で、仲間と楽しく元気で生活したいものです。地域住民で手を携え、周囲に心を配り、気軽に声かけができる、昔ながらの地域社会であってほしいと願っています。

手を携えて地域の福祉を

大谷 義明 理事
おおたに よしあき

(千種町河内)



少子高齢化が進んでいく中、人と人とのつながりが弱くなっていく地域社会で、支援を必要とする人が増えています。

住み慣れた地域で安心出来る暮らしが送れる様、ふれあい活動やご近所ボランティアなど、助け合いの地域づくりに努めたいものです。

今、社会福祉協議会に

出来ること!

平岡 千恵子 理事
ひらおか ちえこ

(山崎町高下)



社協と言えば、ふれあい活動やボランティア活動、さらに介護サービスを連想します。

超高齢社会になって介護が必要な方は増加している反面、元気な方も増加しています。その方のお知恵と経験を福祉活動に生かす受け皿づくりに本腰を入れて、きめ細かい具体的に出来るメニューを提案します。

愛しそふ 広げてつなぐ

ふくしのまち

志水 史郎 理事
しみず しろう

(宗栗市健康福祉部次長)



子育て、介護、孤立など、暮らしのあらゆる場面において、皆で支えあい、つながりの輪を広めていくことが必要な時にきています。

そのための地域づくり、ひとづくりを市民、社協、行政が連携して進めていきましょう。

や

まさき

園児が中3生にエール!

城下幼稚園ミニクリスマス会

山崎南中学校3年生と城下幼稚園の園児たちが、おもちゃ作りや学校給食を通じて、一年間をかけた交流活動に取り組み、今年で5年目に なります。

中学生と園児は、年間を通して同じペアでふれあうため、回を重ねる度に、信頼関係が生まれていき

ます。

12月19日(金)この日は、園児たちが受験を控えた中学生のお兄ちゃんお姉ちゃんをミニクリスマス会に招待し、手話でエールを送りました。

「お兄ちゃんお姉ちゃん、おもちゃと絵本ありがとう。勉強がんばってね」園児の一生懸命な手話の合唱とメッセージに、涙する生徒の姿もありました。

一緒におやつを食べ



手話で「未来へ」を合唱。この交流は幼中連携教育の一環として計画的に取り組まれています(城下幼稚園)

たり、自由遊びや園児からのプレゼントもあり、三者面談や受験勉強で張りつめていた気持ちも和らいだようで、園児とやさしい笑顔で接する姿が印象的でした。

この交流がきっかけとなり、保育士をめざす生徒もいるようです。

これからもこの「交流」を通して、お互いを思いやる気持ちで育まれていくことを願っています。

(山崎支部 森井裕矢)

い

ちのみや

元気な顔が見たいから!

中安積ふれあいサロン

「また次も来てもらえるようなことをしたい!」

今回は、中安積自治会で取り組まれているふれあいサロンをご紹介します。

中安積では、学校給食センターでの会食や本会の福祉活動リーダー研修会で学んだ体操を取り入れるなど、参加するのが楽しみになるふれあいサロンをされています。

12月17日(水)は、事前に福祉委員からの声かけを受け、雪が降る中、14人が公民館に集まりました。

この日は、新年に向けてみんなでもの作りをしよう、と代表福祉委員の平利光さんの発案でミニ門松づくりを行いました。参加者からは、「準備大変やったやろ?ありがとう」「ええこと考えてもって嬉しいわ」との声がありました。

その後は、お茶を飲みながら心配ごとや最近の出来事など話題は尽きず、楽しいにぎ

やかな場となりました。

「参加者がどうすれば喜んでくれるか、考えるのは大変だけれど楽しいね」と平さん。

運営方法も試行錯誤、でも楽しみながら、住民が集まる場づくりをされています。

今後も、福祉委員と参加者のみなさんが一緒になり、笑顔あふれる「中安積ふれあいサロン」を続けて下さいね。

(本部・二宮支部 三宅あゆみ)



「ええのができたでしょ?もっとたくさんの人に来てほしいなあ」(中安積公民館)

居場所づくりを大切に

地域ふれあい餅つき大会

12月12日（金）、野原小学校

で「地域ふれあい餅つき大会」が行われ、児童と野尻幼稚園の園児、地域住民、約120人が集まりました。

この餅つき大会は、老人クラブの協力を得て行われ、何年も続いてきた地域交流事業です。

子どもたちは、餅のつき方や丸め方を教えてもらい、出来立てのお餅を口いっぱい頬張ります。「田植えから稲刈りまで、おじいちゃんに手伝ってもらったんやで」と話してくれました。

波賀町は来年度から学校適性規模化により3つの小学校が一つになります。地域ぐるみのこの取り組みも今年で一つの区切りとなることから児童がいな



子どもたちに大人気のチョコレートや生クリームが入ったお餅はPTAのアイデア(野原小学校)

加がありました。

「これからはみんなが寄る場所を作ることがもっと大切になるな」と野尻老人クラブ会員の北條茂幸さん。

北條さんの言葉からも、今後は居場所づくりがさらに重要になると感じました。

これまでの地域の交流を大切にしながら、住民同士の絆をさらに深めることが必要です。

(波賀支部 平有利菜)

千種のまちを元気にしたい!

「こころあったかカフェ」

12月6日（土）、

千種保健福祉センターを会場に「こころあったかカフェ」が行われました。

あったかカフェは、地域のつながりを深める機会を作ろうと、千種地域福祉推進委員会（千種の福祉を進める関係者で組織）で企画されました。

会場には、民生委員や福祉委員、当事者団体、一般住民など30人の参加があり、カフェのお手伝いとして、千種ボランティア連絡会にご協力いただきました。

当日は、生涯学習サポート兵庫の山崎清治さんをゲストにお招きし、カフェ形式のワークショップにより、自分のま

ちの身近な課題や良い所など紙に書いて出し合いました。「今日は楽しかったで。いろんな話が聞けて本当に良かった」と推進委員（室自治

会長）の平田正実さん。

「わしも初めて来たけど良かったで」と、ひとり暮らしのお年寄りからの声もあり、会場はコーヒーの香りとともにあったかい雰囲気になりました。

みんなで協力して千種のまちを元気にしたい：参加者の思いから大切なのは、人と人とのつながり。だと感じました。

あったかカフェ：みなさんの地域でもいかがですか。

(千種支部 小原志のぶ)



参加者全員が今の思いを発表しました(千種保健福祉センター)

はが

ちくさ

オーダーメイドの介護パジャマ 縫製ボランティアつむぎの会



縫製ボランティアつむぎの会では、介護者の負担を軽減するため、オーダーメイドで注文を受け、身体の状態に合わせた介護パジャマを製作しています。

ご希望の方は、お問合せ下さい。

<お問合せ> 山崎支部 62-5530

夢と希望を届ける サンタクロース



あわてんぼうのサンタクロース♪
キリン組さんからお歌のプレゼント

12月17日(水) 一宮北保育所

今年も一宮北保育所のクリスマス会にサンタクロースがやってきて、こどもたちは大喜びです。

このサンタクロースは退職世代の方々を中心に結成したボランティアグループ「ぶるーべりい会」によるもので、市内の保育所や幼稚園を訪れ、クリスマス会を盛り上げています。

「特別な事はできないけど、こどもたちの喜ぶ姿を見るとこっちが元気になるね」とボランティアのみなさんは楽しそうに話されます。

これからもみなさんの温かい心でこどもたちに夢と希望を届けてください。(本部・一宮支部 田中祥仁)

ボランティア センター日誌

こどもたちは どんな生活をしているの?



ここは幼児たちの遊び部屋
信和学園 田中園長が案内

12月9日(火) 信和学園・二葉園を訪問!

本会が、毎年夏休みに実施しているこどもホームステイ事業の研修会として、児童養護施設「信和学園」「二葉園」の2施設を訪問しました。

少人数の特性を活かし男女の垣根を外し共同生活する信和学園、また反対に大規模なホームの中でみんながひとつの「家族」として生活する二葉園とそれぞれの園の特徴を学ぶことができました。

参加者からは「普段の生活を知ること、こどもたちの考え方や気持ちがわかる気がします」「このような機会をつくっていただき本当にうれしい」等、有意義な研修会となりました。

(本部・一宮支部 田中祥仁)

～ろう者と健聴者が交流～

クリスマス交流会開催♪



劇「ねずみのすもう」
「がんばれーがんばれー」

12月21日(日) 宍粟防災センター

宍粟ろうあ協会と宍粟手話サークル連絡会が、「クリスマス交流会」を開催しました。

子どもから大人まで40人が集い、ゲームや劇を披露し、会食しながら交流を深めました。参加者から「たくさんのろう者と出会い、いろんな手話が見られ勉強になった」との声が。宍粟ろうあ協会会長の藤田敏さんからは「ろう者と健聴者のコミュニケーションの場として毎年開催しているが、その輪がどんどん広がっていくことを願っている」とあいさつ。

ろうあ協会と手話サークル連絡会は交流会をはじめ様々な活動や運動を展開しています。今後も活動を見守り紹介していきたいと思ひます。

(波賀支部 坂本幸子)